

「キアラ館」が竣工50周年！を迎えました

孤高の建築家・白井晟一氏が設計した学園のシンボル「キアラ館」が今年、竣工50周年を迎えました。50周年を記念して、本学園では各種記念イベントを開催いたします。そこで、記念イベントや寄附事業であるキアラ館基金、キアラ館の今後について、キアラ館内にあるキリスト教センターのセンター長である野口チャブレンに伺いました。なお、キアラ館基金では、皆様からの「寄附をキアラ館の修繕や整備等に活用しています。竣工50周年を迎えたキアラ館の維持・活用のため、皆様のキアラ館基金へのご支援をお願い申し上げます。

Q1.キアラ館が今年竣工50周年を迎えた感想をお願いします。

A1:50年と言えば、それは「半世紀」に当たりますので、まさに、“歴史”を感じます。ことに、オイルショックによる物価高騰の煽りを受け、白井建築を一時断念せざるを得なかった時は大変だったと思います。しかしながら、結果的に、それらの大きな試練を乗り越えて、建築家・白井晟一氏によるキアラ館建築に漕ぎ着けた時は、言うなれば「その時、歴史は動いた!」というような瞬間だったのでないでしょうか？キアラ館建築に関わった有名無名の先人たちのご苦労を想うと、感慨無量です。そして、そんな50年間の永きに渡り、学園の歩みを見守ってくれたキアラ館に、まずは「お疲れ様!」、そして「これからもよろしく」と言いたいと思います。

Q2.竣工50周年記念イベントはどのようなことを行いますか？

A2:最たるものは、学園祭の初日(11/2)の午後に予定している記念レクチャー&コンサートでしょう。キアラ館礼拝堂を会場に、白井晟一氏の孫で、現在、白井晟一建築研究所(アトリエNo.5)代表である白井原太氏による講演と、キアラ館の建築・施工に当たった竹中工務店のコーラス部による演奏を行なう予定です。また、その日に前後した期間限定で、キアラ館2Fアツパールームにて、学園資料センター主催のキアラ館に関するパネル展開催も計画しております。さらには、学園キリスト教センター主導で、随時、キアラ館に特化した大学チャペルを実施したり、アドヴェントの時期には、キアラ館専属のオーケストラ「シンフォニエッタ・キアラ」(指揮：佐藤希久雄教授)による特別コンサートも開催する予定です。

Q3.キアラ館は現在、どのように利用していますか？

A3:まず、何と言っても、その中心は、原則週3日開催される大学チャペルです。多くの学生は、チャペルでの奨励(講話)もさることながら、キアラ館礼拝堂の荘厳かつ落ち着いた雰囲気癒されると、口を揃えております。また、大学の前・後期のキリスト教講演会、シンフォニエッタ・キアラによるコンサート、学園クリスマスや大学クリスマスなどのクリスマス関連行事、大学看護学部の日宣式、そして、中学校の卒業記念礼拝などがほぼ定期的に行なわれています。さらに、特筆すべきは、本学園卒業生の結婚式でしょうか？(ちなみに、私自身も、約30年前にキアラ館礼拝堂で挙式し、良き思い出となっております。)なお、キアラ館には、学園キリスト教センター事務室の他、学園資料センター、黙想できる「メディテーション・ルーム」、学園と教会の連携の場「リエゾン・オフィス」などもあります。



Q4.キアラ館基金ではこれまでどのような寄附事業を行ってきましたか？

A4:まずは、尊い「寄附を、キアラ館基金はじめ、学園のためにくださいました皆様に、心より感謝を申し上げます。キアラ館基金へのご寄附では、主に、キアラ館に必要な備品を購入しました。コロナ対策で緊急に必要な設置型体温計を購入し、設置。また、大学チャペルには欠かせない、パワーポイントを映し出すスクリーンですが、大型ワイドサイズのもので、運搬・移動にも優しい軽量のものを買わせていただきました。加えて、楽譜の譜面台を代用していた司会者卓を、キアラ館に見合うものにさせていただきました。さらには、キアラ館の諸室で使われていた、建設当時以来の老朽化したイスを、スタッピングも可能な軽量のものに交換させていただきました。その他、キアラ館の修繕の一環として、礼拝堂のステージ上ペンダント・ライトがしばらく使用不可能だったのですが、数年ぶりに直すことができました。ここに感謝を持ってご報告致します。

Q5.今後、キアラ館をどのように活用していきますか？

A5:癒しの空間であるキアラ館は、学園の宝であると同時に、地域の財産でもあると、自負しております。よって、大学チャペルのようなものだけでなく、より地域に開かれた講演会なども開催していけたらと思います。また、音響もとてもいいキアラ館ですし、世にも珍しいベルギー製の木製パイプ・オルガン(パイプも木製!?)も設置されておりますので、どなたでも気軽に乗り越えただけのコンサートなども開催したいと考えております。そのようなことを通して、“ウェル・ビーイング”が叫ばれる昨今、本学園の園児・生徒・学生並びに教職員のみならず、地域の皆様にも“癒し”の時、“満たし”の場を提供できたらと思います。名付けて「プロジェクトK(キアラ)」です!?

※キアラ館を見学ご希望の方は、事前に学園キリスト教センターまで、お電話またはメールでご連絡ください。
電話：0294-52-3215(平日9:00~16:45)
メール：kiara@icc.ac.jp

キアラ館基金への
「寄附はこちらから」



ICグローバル人材育成奨学基金による奨学生メッセージ

G.R.E.A.T.
Program

高等学校 2年
岩間 優希奈さん
アビリーンクリスチャン大学(アメリカ)に留学

私はこの留学期間中にコロナウイルスに感染し、予期せぬ苦勞が多くありました。3週間しかない留学期間の1週間はアパートで療養していたため、やれるはずだったことができず悔しいと感じることもありました。ただそれを乗り越え、その後の授業や生活で自分なりのアプローチの仕方を見つけ、それによって成長することができたようにも感じます。このような経験ができたのは、周囲のさまざまな支援・協力(奨学金など)があったからこそだと思います。

特殊演習
履修生

大学文学部 児童教育学科 2年
原田 萌楓さん
ハワイパシフィック大学(アメリカ)に留学

この度は奨学金のご支援をいただきありがとうございます。現地では、小学校における英語教育法を学ぶだけでなく、一緒に参加した現役の先生方との対談、HPUの学生との交流等貴重な体験ができました。また、困った様子でいると、当たり前のように手を差し伸べてくれる海外の人の優しさをとても感じました。将来は世界で活躍する教師になりたいと考えています。皆様のおかげで貴重な経験ができたこと、今一度心よりお礼申し上げます。

春期海外語学
研修生

大学文学部 現代英語学科 2年
小室 百花さん
ワイカト大学カレッジ(ニュージーランド)に留学

私のクラスでは、教室には英語のみというルールが設けられ、先生はもちろん他の日本人学生とも英語で話していました。初めは英語でコミュニケーションを取ることが不安でしたが、そのような環境のおかげで不安が徐々に無くなっていくのを感じると共に、日本に帰っても英語の勉強により励みたいと強く思いました。英語だけではなく、ニュージーランドの文化についてもたくさん学ぶことができ、海外留学を体験することができて良かったです。

大学留学生

ザビヤカ・イリナさん
リヴィウ大学(ウクライナ)

私は日本に来てから、絶対なるべくいろいろな経験したいと決めました。ヨーロッパと比べたら、文化も、食べ物も、言語も全然違うから、最初のカルチャーショックが大変で、どこを見ても、全部のものは新しかったから、試してみるしかなかったです。しかし、先生たちや友達がいっしょ手伝ってくれて、徐々に日本の生活に慣れてきました。もちろん、今まで食べたことない食べ物を食べたり、見たことないところへ行ったりできるように資本が必要で、奨学金がなかったら、絶対最初に困ると思います。それで、奨学金をもらえて心からありがたいです。新しく、楽しい経験をできるように支援してくださってありがとうございます!

大学留学生

コッティーニ・マッテオさん
ミラノ大学(イタリア)

日本語と日本文化の勉強のために、6年以上を捧げ、日本へ留学の機会をいただき感謝しております。この素敵な国の文化と日本語への理解を深めたほか、多くの美しい人々と出会い、茨城県での学生生活を楽しみ、海外で一人暮らしの困難を乗り越えることができました。将来は、自国と日本の架け橋であり続けたいと願っておりますので、これからも精一杯頑張ります。繰り返しますが、誠にありがとうございます。

大学留学生

レ・ティ・タイン・ヒエンさん
ホーチミン市テクノロジー大学(ベトナム)

1年間の留学中に24万円の奨学金をいただき、私にとっては非常に貴重な金額でした。バイトの給料と共に生活費を支払うお金が増えるので助かりました。そのおかげで、少し余裕ができて、日本のあちこち旅行できるようになりました。良かったと思います。奨学金を与えてくださって、心から本当にありがとうございました。将来、私は日本語翻訳者になりたいです。1年間留学して、日本の文化、日本人の働き方、日本語でのレポートの書き方や日本の小説を読んで感じるなどのように様々なことが勉強になりました。それは私の将来の仕事に非常に役立つと思います。

※紙面の内容は取材当時の情報です。